

海運の重要性を学校教育の場で～下関市内の小学校 3 校を招待～

日本船主協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、海事・港湾都市を中心にお願いをしております。

今般、9 月 25 日（火）に下関市と共に、関釜フェリーおよび九州海事広報協会などの協力を得て、フェリー「はまゆう」の船内見学および船と港に関する講話などを市内の小学 5・6 年生 約 60 名を対象に実施しました。

「はまゆう」乗船に際し、税関・出入国管理ゲートにて、日本は様々なものを外国から輸入していることやパスポートにまつわる話を聞くとともに、出入国スタンプを押印してもらった模擬体験をしました。

船内では最初に下関市港湾局より、下関港について年中無休通関ができる便利な港であることなどの特徴の説明がありました。次に当協会より、貿易量の 99%以上が船で運ばれていることや船による輸送が止まったらコンビニの商品が無くなるなど「生活には船は必要」であることを伝えると



ともに、300m を超える大きな船でも約 22 名の船員で動かしていること、船のハンドル（舵輪）は車と変わらないこと、コックがおいしい食事を作ってくれるなど船内での仕事や生活などについても説明しました。

講演後は、船内見学が行われ、関釜フェリー職員より、船橋（ブリッジ）でレーダーや航海機器、海図、舵輪などの説明があり、児童たちは講演で学んだ小さな舵輪を実際に見て驚いた様子でした。

当協会では、今後もわが国の暮らしと産業を支える海事産業を広く知っていただくための活動を展開してまいります。

